

地中(土中)埋設型コンポスターの使い方

我が家の狭い庭で12年以上使用している地中埋設型コンポスター2基です。地中型とも土中埋設型とも呼ぶようです。とにかく扱いが簡単で、生ゴミを焼却炉で燃やしたくないがマメでない人向きに絶好のツールです。蓋のみ見えていて目立ちません。



塀ぎわの木の下で、陰になっている所に設置してあります。日当たりの良い所がベストですが。



上の土を除き蓋をとった状態
(中は空っぽ)



蓋をしたところ



周りに土をかけた普段の姿

形状・材質：

直径約70cm、深さ約70cmです。

直径約20cmの蓋、その下に網目状の上部、その下に垂直な網目状の側面部の3つの部分で成り立っているプラスチック製品です。底面部はありません。

2基設置する必要はなく、一杯になったら引き抜いて別の穴に設置するやり方でも同じ結果を得られます。(臭い除け、視線除けの内蓋は外してしまいました)

使用法：

3～4人家族で一方のコンポスターに生ごみを投入して約一年で一杯になると、もう一つの方に入れ始めて、その間の約一年は初めのコンポスターの熟成期間ということになります。家族数や食事状況の変動に応じて、投入終了までの期間は11か月～14か月と幅があります。

かなりいい加減な使い方で、長期間にわたり、ただ投入をしてきましたが、臭い、虫などに困ると草、土、ぬか、その他の資材を適当に投入してしのいできました。水分は下に抜けるので、あまり神経質になる必要はないようです。

現状：

この一年間は季節を問わず、生ゴミを投入する度に土を入れて少し混ぜ合わせる、或いは上に掛けるなどするようになり、臭いも抑えられるし、発酵の兆候も時々見られるなど、以前に比べて使用法が進化したと思っています。

コンポスターの傍らに土、落ち葉、枯草など置いておくとすぐに投入できて便利です。

右の写真はぎりぎりまで生ゴミを入れた状態ですが、一年間置くと20 cmから30 cm下がります。



堆肥（土壌改良剤）の使い道：



熟成したら蓋、上部を取って掘り出します。以前は冬にパンジーをプランターへ植え付けるのに使っていましたが、その用途は少なくなったので、掘り出したら保管しておき、年間を通してその他の鉢植えなどの用土として使ってきました。

一年余り前から屋上、2階ベランダでのプランターによる野菜栽培に使うようになりました。



平成19年10月 小松菜の芽が出てきたところ



平成20年7月末 夏野菜収穫

私なりの感想：

- ・我が家ではこのコンポスター（コロ社製「エコロエース」）が壊れるまで使いますが、これから使ってみようという方には他社の小型の物をお勧めします。設置（穴掘り）も管理（土出し）も楽でしょう。※調べたところ、エコロエースは販売中止です。現在、購入可能な広田産業（株）商品名「ミラコンポ」は4個1セット 15,000円 問い合わせ先：poly@hirota-sangyo.com
- ・コンポスターを買わないで同様の効果を上げるやり方は、「資源循環委員会」の「減量・資源化ノウハウ」の「土壌混合法」を参照してください。 2009.2.23